



LET'S PLAY Indiacca

www.japan-indiacca.com

29 2006.7

〒101-0061
東京都千代田区三崎町2-20-7
水道橋西口会館内
TEL.03-3512-2801
FAX.03-3512-2802
E-mail: JIA@japan-indiacca.com

Japan Indiacca Association ● (社)日本インディアカ協会

第2回全日本インディアカトーナメント開かれる

去る6月17日(土)千駄ヶ谷「東京体育館」に全国の各ブロック代表67チームが集まり、平成18年度日本チャンピオンをめざし、熱戦が展開された。

今回の上位入賞チームは2008年にヨーロッパの〈ルクセンブルグ〉で開催される「第3回インディアカ ワールド チャンピオンシップ」の日本代表としての出場権が得られる。

また、記録用紙が新しく決まり、本大会で初めて試用された。記録員の役割を努めた指導審判員も必死で競技を注目し、初めての試みとしては成功といえよう。

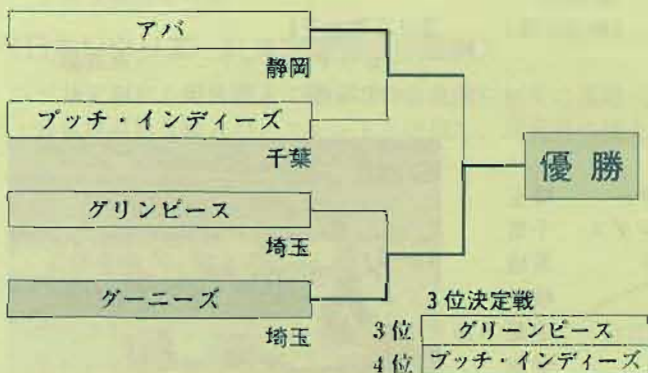
平成18年度4月から施行された新しい競技規則で開催された大会であるが、混乱もなく円滑な競技運営が行われ、次回大会の平成19年6月16日(土)には全ブロック(6ブロック)の足並みが揃うよう期待する。



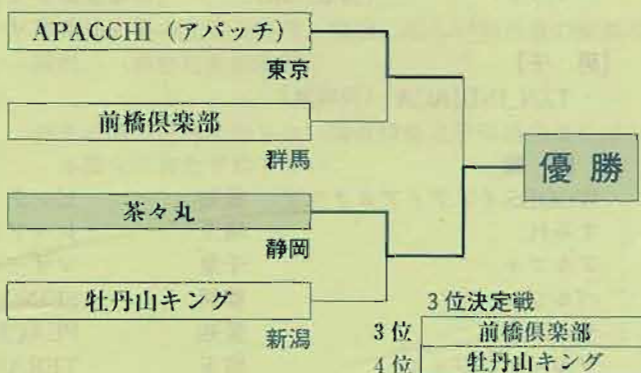
【混合の部】



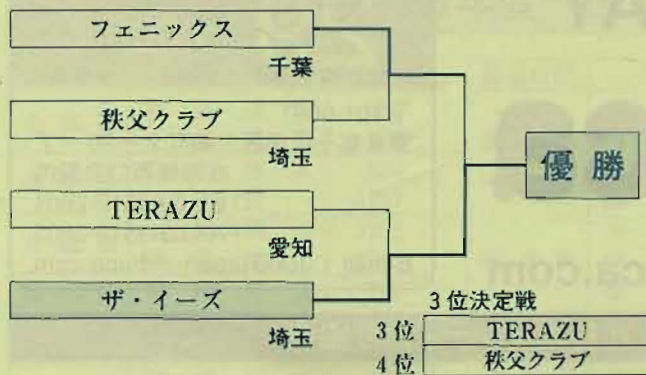
【女子の部】



【男子の部】



【シニア混合の部】



【シニア女子の部】



'06 ジャパン フレンドシップ インディアカ リーグマッチ

昨年同様「第2回全日本インディアカトーナメント」に引き続き6月18日(日)「東京体育館」で全国から115チームが参加して盛大に開催された。

この大会は交流・親睦を目的とし同じグループが協力して大会を創り上げていくものである。

各部門のバランスをとって全体を8グループに色分けし、そのカラーのTシャツをユニフォームにして競技に参加し、対戦毎の得点を集計して優勝グループを決定する方式で行っている。従って個々のチームの順位は決めず、グループの順位が決定され表彰される。

大会結果

優勝	ネイビー	207.20ポイント
準優勝	ライトピンク	204.21ポイント
3位	ライトグリーン	202.95ポイント
4位	オレンジ	188.00ポイント
4位	サックス	188.00ポイント
6位	ロイヤルブルー	173.85ポイント
7位	グレー	170.04ポイント
8位	イエロー	169.63ポイント



ネイビーチームの構成

【一般混合】

- ・福井リコー (福井県)
- ・はまぐりA (千葉県)
- ・WINGS (栃木県)
- ・マリン (神奈川県)

【女子】

- ・花みずき (東京)
- ・フェニックス風 (千葉県)
- ・フレッシュメント (千葉県)
- ・ピンクバイレッツ (静岡県)
- ・フレンドリー (神奈川県)

【シニア混合】

- ・習志野台コスモスS (千葉県)
- ・日野JIC (東京都)
- ・TERAZU (愛知県)

【男子】

- ・TZN_INDIACA (茨城県)

【シニア女子】

- ・レッドロケット (東京都)
- ・すみれ (埼玉県)

特別賞

WOODS インディアカクラブ	愛知	ピンクパンサー	埼玉
すみれ	埼玉	レッドウイングス	千葉
アルファ	千葉	マザーエイト	茨城
ベルジュ	静岡	SEINO	岐阜
ライム	愛知	PEACE	千葉
ブルーエンジェル	埼玉	TERAZU	愛知



2nd World Cup in Indiacca

10-13. 08. 2006

Viljandi, Estonia



第2回インディアカワールドカップ エストニア/ヴィリヤンディ

国際インディアカ協会(International Indiacca Association)は、4年に1回世界大会を開催している。

今回は2002年ドイツのカールスルーヘで第1回が開催されたことを受けて、第2回大会として2006年8月9日～13日までエストニアのヴィリヤンディで開催されるものである。

大会は6部門(シニア女子、シニア男子、シニア混合、一般女子、一般混合)で世界のクラブチャンピオンを決める大会である。

日本からは、シニア男子を除く5部門にエントリーしており、その活躍が期待される。

第2回インディアカワールドカップ競技日程

- 2006. 8. 8 歓迎パーティー
- 2006. 8. 9 開会式

- 2006. 8. 10 予選リーグ(予選～準決勝)
- 2006. 8. 11 予選リーグ(予選～準決勝)
- 2006. 8. 12 予選リーグ(予選～準決勝)
- 2006. 8. 13 決勝戦(6部門)

NUMBER OF TEAMS

Country	18+			40+		
	Men	Women	Mixed	Men	Women	Mixed
Estonia	2	2	2	1	1	1
Germany	2	2	2	1	1	1
Japan	1	1	1	0	1	1
Luxembourg	2	1	2	1	0	1
Switzerland	2	1	2	1	1	1
Total	9	7	9	4	4	5

Reichertshausen [Indiacca Sports Club] 25周年記念国際大会の開催

日本とドイツの国際交流を大きく発展させ、国際協会設立にも大きな力を注いできた(Heinz Karl Kraus)のフランチャイズであるライヒェルトシャウゼン(ミュンヘンの北部)のインディアカクラブが設立25周年を迎え、その集大成として標記大会を計画している。

ドイツと最も縁の深い日本に招待状が届き、参加の準備をしている。

参加メンバーは、国際交流に関心があるインディアカ愛好者を募っている。

〈交流日程〉

- 9/22 成田出発、ミュンヘンを経由してライヒェルトシャウゼンに到着。
- 9/23 大会記念パーティー
- 9/24 「Reichertshausen 25周年記念国際大会」
- 9/25 ニュルンベルク、ヴェルツブルクを観光してローテンブルクへ。
- 9/26 ハイデルベルクを観光してマルターディングゲンへ
- 9/27 「国際親善交流大会」夕方歓迎パーティー
- 9/28 フランクフルトから帰国
- 9/29 成田到着

平成18年度事業計画 (概要)

2005年度も残すところ僅かとなり何かとあわただしい毎日であるが、景気の浮上はあまり望めず、あまり展望の開けない2006年度を迎えようとしている。

このような中において2005年度は、競技規則の改定に取り組み、平成18年4月1日実施に向け、全国各地で新しい競技規則の伝達講習会が開催され、周知に努めている。

一方、初めて開催されたチャンピオンシップ大会である「全日本インディアカトーナメント」も成功裡に終了し、2006年度も引き続き第2回大会を計画している。また各レベル（都道府県・ブロック・全国・国際）の大会は徐々に整備され、大会参加のニーズは満たされてきていると思われる。

組織の充実発展については、「組織強化育成3カ年計画」を策定し、3年間を一つの区切りとした計画により実施し、都道府県インディアカ協会の育成強化をすすめると共に、日本協会の充実発展を図っていく。

特に、3カ年計画でも示しているが、組織育成強化重点モデル県を指定し日本協会がこれを支援していく。

また、会員、公認審判員の全国分布をみると、都市部にその数が集中し、都市部以外の道府県との差が顕著である。本年度の重要課題としては、会員・公認審判員数著しく少なく、大会等も開催が難しいいくつかの道府県協会に対し支援策を講じ、活性化するように努める。

【組織の整備・強化】

〈各ブロック協議会との連携、協力〉

・各ブロックで開催される会議に日本協会からも役員または委員が参加し、情報交換を密にし相互の連携を図る。地域協会の育成・援助の方策を検討し活発化を図る。

〈個人会員・公認審判員の拡大〉

・現在、全国レベル及びブロックの大会は、スポレク祭を除いてすべて日本協会の個人会員もしくは公認審判員でなければ参加できないシステムになっている。

会員・審判員のメリットとして大会に参加できるということアピールする。

都道府県レベルの大会もこれに準じるよう働きかける。

・都道府県レベルの大会は、帯同審判制を採用し、資格の活用と拡大を図る。

・ブロック、全国レベルの交流大会も、主審以外は帯同審判員によって競技運営するよう試みる。

会員数や、公認審判員数の関係で大会等が開催できない道府県にあっては、参加費に差をつけて、会員でない選手も参加を受け付け、入会の機会をつくる。

・「組織強化育成3カ年計画」に基づき、モデル支援協会を指定し、計画的に公認審判員を養成していく。

【競技規則の改正及び作成】

この度、平成13年の競技規則改正以来、多方面から数々のご意見を並びに励ましをいただき慎重に検討を加えた結果、総務委員会・理事会・総会の議を経て、平成18年4月1日から新しい競技規則を実施する。この間、周知の徹底を図り、円滑に移行できるよう努めることとし、競技規則本を刊行する。

また、ジュニア用インディアカ競技規則を制定し、平成18年4月1日実施し、次世代を担う人材を養成してゆく。

【競技会の開催】

〔各種全国大会〕

● 『第12回（2006） ジャパンフレンドシップインディアカリーグマッチ』

・ 2006年6月18日（日）東京体育館 128チーム（700名）
（社）日本インディアカ協会の個人会員、公認審判員を対象にして毎年1回開催され、日頃の練習の成果の発表の場として、会員相互の親睦・交流の場として評判の高い大会である。

● 『第2回全日本インディアカトーナメント』

・ 2006年6月17日（土）東京体育館 80チーム（480名）
この大会は、平成17年度から新しく開催されたもので、今回が第2回大会となる。

市町村大会⇒都道府県大会⇒ブロック大会⇒全日本大会へと組織的に連動した大会である。以後も毎年開催したいと考える。

20数年の歴史の中で、いくつかの組織は、自由に参加者を募り「交流親善大会」と称して、市町村協会がブロック大会と同じレベルの大会を開催し、ルールをはじめ、参加者の所属協会が困惑している現実がある。日本協会としては、ブロック大会、全国大会のあり方を見直し、その特徴や意義を盛り込んだ大会を開催したい。

● 『第29回全国インディアカ大会』

・ 2006年9月17日（日）
青森県黒石市「スポカルイン黒石」60チーム（300名）
「第60回全国レクリエーション大会」の中で開催される。

● 『第19回全国スポーツ・レクリエーション祭』

・ 2006年10月21日（土）～10月24日（火）
鳥取県米子市「県立米子産業体育館」48チーム（480名）

〔ブロック大会〕

● 『北海道・東北ブロックインディアカ大会』

・ 2006年9月10日（日）
秋田県大館市「大館市樹海体育館」60チーム（360名）

● 『関東甲信越ブロックインディアカ大会』

・ 2006年11月12日（日）
東京都府中市「府中市民体育館」80チーム（480名）

● 『東海・北陸ブロックインディアカ大会』

・ 2006年11月5日（日）
石川県河北市「河北台健民体育館」60チーム（360名）

● 『中・四国ブロックインディアカ大会』

・ 2006年6月18日（日）
愛媛県西条市「西条市体育館」72チーム（400名）

● 『関西ブロックインディアカ大会』

・ 2006年11月3日（金）
大阪府堺市「堺市立大浜体育館」48チーム（300名）

● 『九州・沖縄ブロックインディアカ大会』

・ 2006年5月28日（日）
大分県別府市「別府市総合体育館」60チーム（360名）

[公認審判員の養成]

〈新規会員登録〉 1,500名

[普及審判員の養成と認定]

〈普及審判員認定講習会の開催〉 50回 1,500名 全国各地

〈普及審判員認定・登録〉 1,500名

[指導審判員の養成と認定]

〈指導審判員認定講習会〉 3回 100名 全国各地

〈指導審判員認定・登録〉 100名

[登録更新]

〈個人会員〉 1,250名

〈普及審判員〉 2,570名

〈指導審判員〉 110名

[指導審判員研修会]

指導審判員が3年に1回(資格有効期限が延長されたため更新義務としては3年に1回)最寄りの開催地に集合し、指導法・審判法・競技運営法・安全管理等の実践研究を行う。またルールのご共理解や大会運営について学習する機会として開催している。

今年度は、3会場で開催する。

- 「東日本地区研修会」 2007年1月～3月
- 「中日本地区会場」 2007年1月～3月
- 「西日本地区研修会」 2007年1月～3月

[認定員研修会]

●「東日本地区研修会」 2007年1月～3月

●「西日本地区研修会」 2007年1月～3月

【国際交流事業】

〈International Indica Association〉

・定例理事会の開催。

〈期 間〉：2006年8月7日(金)～9日(日)

〈場 所〉：エストニア/ヴィリヤンディ市

〈第2回 インディアカワールドカップ〉

国際インディアカ協会による主催事業で、今年度はエストニアのヴィリヤンディ市で開催される。この大会は、4年に1回開催されるもので第1回はドイツのカールスルーヘで開催されている。

今回は、昨年の「第1回全日本インディアカトーナメント」の上位入賞チームが出場権を得ている。

〈期 日〉2006年8月7日(火)～15日(火) 泊9日

〈派遣数〉選手 25名・審判員 4名・役員 2名

〈ライヒェルトシャウゼン25周年記念大会〉

ドイツとの交流の契機となったライヒェルトシャウゼンの協会が創立25周年を迎えることになりその記念大会が開催されことになった。

〈期 日〉2006年9月22日(金)～29日(金) 泊8日

〈派遣数〉選手 20名・役員 1名

平成18年5月30日

組織育成強化3ヵ年計画に基づく公認審判員制度の改定

1. 公認審判員制度の改定理由

個人が公認審判員の資格を取得する気持ちの始まりは、クラブのメンバーが互いにプレーをしているときの審判員の役割を行うことから始まり、ホイッスルの魅力を感じて意欲的になることが資格取得の気持ちの始まりではないのでしょうか。

また、現在の多くの大会が総合審判員制で実施されていることにより、大会への参加条件にチームに公認審判員がいなければならないことも資格取得の気持ちの始まりと思われる。

そして、現在の日本協会を構成する都道府県協会並びに市区町村協会では、それぞれが主催する大会数が増えてきており、必然的に多くの公認審判員が必要になってきている中において、現在、日本協会が認定している公認審判員の種類は、「普及審判員」と「指導審判員」の2種類があり、その役割も競技会での「審判員」とインディアカを普及するための「指導者」の役割を担っています。

ところが、この「普及審判員」及び「指導審判員」の名称では、その役割が一般の人に分かりにくいことや「普及審判員」及び「指導審判員」の資格を所存していても、その位置付けが明確でないこと、また、「審判員」と「指導者」の二つの役割を公認審判員が担っていてもうまく活用されていないなどの実情があります。

そこで日本協会では、これらの実情を見直し、「組織強化3ヵ年計画」に基づいて公認審判員制度を改定する。

2. 公認審判員制度改定のための検討事項

- ①「普及審判員」及び「指導審判員」の名称を一般の人に判りやすい審判員名称にする。
- ②「普及審判員」及び「指導審判員」の役割から「指導者」の役割を取り除き「審判員」の役割のみとする。
- ③判定基準の適正統一と審判技術の向上を図るため、認定員の業務を強化・拡充する。
- ④「インディアカ審判員規程」を改定する。
- ⑤公認審判員認定講習及び研修のカリキュラムを改定する。
- ⑥指導員、コーチ制度を検討する。
- ⑦平成19年3月31日付け更新時から順次更新時に新カードを発行する。

3. 新たな審判員の名称と種類

- ①インディアカA級公認審判員(新設)
- ②インディアカB級公認審判員
- ③インディアカC級公認審判員

4. 現行の審判員の名称変更

- ①指導審判員→インディアカB級公認審判員
- ②普及審判員→インディアカC級公認審判員

5. 新たな審判員の役割(活動)

- ①インディアカA級公認審判員は、JIA主催大会の主審を担当することができる。
- ②インディアカB級公認審判員は、都道府県協会主催の大会の主審を担当することができる。JIA主催大会の審判を担当する。
- ③インディアカC級公認審判員は、市区町村協会主催の大会の主審を担当することができる。都道府県協会主催大会の審判を担当する。

6. 公認審判員の管理登録及び認定講習の区分

公認審判員はJIAが認定ののち都道府県協会が管理し、JIAが統括する。

- ①A級はJIAが年1回開催する講習会を受講。
- ②B級はJIAとブロック協議会が共催するJIAの定める講習会を受講。
- ③C級は都道府県協会が主催するJIAの定める講習会を受講。

※指導審判員のA級への移行措置

審判員の資質の向上を図るため資格取得後の研修会は、次のとおり定める。

- ①A級はJIAが研修会を設ける。
- ②B級はJIAとブロック協議会が研修会を設ける。
- ③C級の研修は都道府県協会に一任する。

※A級審判員は、A級審判員として判定基準の適正と審判員技術の維持を図るため更新時に審査を行う。資格取得後の時期は検討する。

公認審判員の種類・活動・講習(研修会)・任期

資格	活 動	認定講習	資格取得条件	研修会等の参加	任期
A級	JIA主催大会の主審	JIA主催講習会受講	B級取得後3年間の活動実績	全国研修会・全国大会派遣1回以上参加	3年
B級	都道府県協会主催の主審 JIA主催大会の審判	JIAとブロック協議会主催するJIAの定める講習会受講	C級取得後3年間の活動実績	JIAとブロック協議会主催研修会受講(任期中に1回以上)	
C級	市区町村協会主催大会の主審 都道府県協会主催の審判	都道府県協会が主催するJIAの定める講習会受講	18歳以上の者	都道府県協会主催研修会受講	

